『2023 年度 春学期 学生による授業評価報告書』刊行にあたって

学長　髙橋秀裕

2023 年度春学期末に実施した学生による授業評価アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに報告書として刊行いたします。このたびの調査にご協力いただいた学生の皆さん、授業担当の先生方、アンケートに関する検討会の先生方、担当の事務局職員の各位に深く感謝申し上げます。

本学の授業評価アンケートは組織的な FD 活動の一環として、他大学に先駆けて実施されてきた事業です。まさに PDCA サイクルのチェック部分にあたり、授業ごとの具体的な効果や問題点を把握し、教員による教育改善に役立てていただくことを目的としています。授業レベルの改善について、是非この報告書を積極的に利用していただきたいと存じます。一方で、コロナ禍を通じて、大学教育に対する先生方の視野も大きく変化したものと思われます。カリキュラム全体を見通しながら、具体的な授業レベルでの学生の到達状況を把握し、教員個人の授業改善はもとより、学科、学部の組織的な改善活動にもつなげていただければ幸いです。

さて、今年度は 4 月から、学生も教職員もそれぞれにコロナ感染対策に留意しつつ、キャンパス内は学生で賑わいを取り戻してきました。しかし、現代社会のさまざまな変化は、教職員が気づかない形で、学生の生活や考え方に影響を与えているという指摘もございます。引き続き、学生は実際どう変わっているのか、大学はそれにどのように対応していったらよいのかといった問題にも視線を向けていただければと存じます。こうした問題も含めて大学教育に関して議論するとき、それが大学側の目線、とくに教員目線だけでなされるのではなく、「学修者が『何を学び、身に付けることができるのか』を明確にし、大学が「学生を教育する」という視点から、「学修を促進させる」という視点への転換を図る必要があります。これは決して易しいこととは言えませんが、すべての教職員の努力に大きくかかっており、着実に進めていかなければならないと考えています。

Society5.0 で求められる人材には、いわゆる文系、理系にかかわらず、その一つ目に、数理的推論、データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーション力などのリテラシー、論理的思考力と規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力などを身に付ける必要があると言われています。それらの基盤となるリベラルアーツ教育についても、今後多様な視点から議論を深めていく必要があるでしょう。大学は、学位プログラムを通じて、そうした資質・能力を備えた学生を育成できていること（教育成果）を、学修成果と同様に説明できることが必要です。

本学では教育 DX 推進の一環として、本年度から学内の学務システムなど各種システムを更新しました。教育部門では教員・職員と十分議論を重ね、学生の意見を反映させながら、新 T-Po や UR-note のさらなる活用を推進し、まさに学生が自らの学びを可視化でき、達成感が得られるような支援システムの仕組みを確立しなければなりません。

大正大学では、今後さらに「学修者本位の教育」、学修成果の可視化、教育成果の可視化に向けての取り組みが求められています。関係各位の益々のご理解とご協力をいただくとともに、さらなる授業改善に努めてくださいますようお願いします。